

環境プロジェクト

高校生ボランティア・アワード 2022

身の回りのものが全てが「環境」

環境プロジェクトは「環境」を「身の回りの全て」と定義し、日々活動に取り組んでいます。これはあらゆる社会問題を考える際、山や川といった「自然環境」と人間が生活する「社会環境」の両方に着目する必要があります。

例えば地球温暖化。地球環境の変化は、異常気象や生態系のバランスが崩れるなど「自然環境」への影響とともに、要因のひとつである二酸化炭素排出量などの「社会環境」も考えることが不可欠です。

これは、長らく環境プロジェクトの基本精神として所属するメンバー全員で共有しており、実際の活動においても、環境問題を身近な点から取り組むようにしています。



行動のきっかけを生み出す

環境プロジェクト最大の目的は、「住んでいる地域や年齢、性別に囚われず、行動のきっかけを生み出すこと」。

高校生は学業に部活に忙しい日々を送っています。そんな彼らが、あらゆる環境問題に自ら危機感を持ち行動を起こすことは難しいでしょう。

環境プロジェクトは、所属する生徒が5班の中で自分の関心がある班に所属し活動を発信します。所属する生徒同士も、知らなかった知識を補い合えるのです。

生徒が環境問題を知り、買い物のときに思い出してくれたら。誰も使っていない部屋の電気を消してくれたら。バスから見える景色に思いを馳せてくれたら。

私たちの発信した思いが、生徒の行動に現れることこそ、活動の根幹にある願いです。



新型コロナ禍でも続け、さらに広げた発信



高校生環境連盟は、夏に第3回おうち環境会議を開催しました。「エシカル消費」を題材に全国の高校生と意見を交わした今回はより理解を深めるために、基礎知識を身に付ける「前夜祭」、発展的な内容を話し合う「後夜祭」も開催しました。

また3月には、第32回環境フォーラムを開催し、高校生が環境活動を発表しあい、お互いを刺激し、活動へのモチベーションを上げる機会となりました。

高校生環境連盟

コミュニティ班

活動紹介 & 活動予定

たべもの班

コミュニティ班は、「SFCを地域の学校にする」を目標に設立した班です。本校のある、遠藤地域を巡るフィールドワークには、隣接する慶應義塾大学環境情報学部の大学生も参加し、地域住民との会話を通じて地域の良さを再確認しました。これらの経験をもとに、「遠藤マップ」を制作し、文化祭にて展示しました。



教育デザイン班は、主に環境問題を小学生向けに授業しています。授業を通して、小学生の理解が深まるだけでなく、私たち高校生自身の知識も身に付きます。



「環境問題を身近に」をモットーに、日常生活に関連した授業がメインで、昨年度は幼稚園に地球温暖化について、横浜初等部にも水のろ過について教えました。

教育デザイン班

企業連携班

昨年は新型コロナウイルスの影響で、例年行っていた各イベントの対面開催は困難でした。しかしオンライン技術の浸透により、二年ぶりに再開できたものもあり、またオンラインを活用して、近畿地方など対面でも触れ合えない全国の高校生と環境問題に関して知識を深める機会も作られました。一方で、学校周辺を巡り、地域住民と会話するフィールドワークや一貫教育校の訪問が実現しました。新型コロナ禍が始まって2年。オンラインとオフラインを併用した、新たな環境活動を模索していきます。

たべもの班は、学校全体に食品ロスを知ってもらい、無駄を減らす活動として、生徒から完食前後の写真を募り、新たな作品を作る「組写」を行いました。同作品は「三〇三一年度環境「組写」コンテスト」で大人の見方部門と中学生の視点部門の2つに入賞しました。



企業連携班は、ミーティングを通じた企業への提言や、企業とともに事業を行っています。昨年は、エコプロジェクト「GoGreen Group」と連携し、校内で回収した使用済みカイロを活用した水質改善に取り組みました。

またスターバックス社と連携し、班員が作成したごみの分別やタンブラー持参を呼びかけるポスターを、学校周辺の3店舗に設置しました。



枠を超えた活動へ

環境プロジェクトは、高校生のみが参加しており、なかなか活動内容が生徒に知られていないという課題があります。一方で新型コロナ禍を経て、オンラインを活用した対外活動の幅広さに気づきました。

「環境プロジェクト」の枠を飛び出し、本校生徒を巻き込んだ活動や、オンラインを活用したさらなる企業・一般社団法人との連携を強化していきたいと考えています。

今後開始予定の活動

- たべもの班 フードバンクとの連携
- 教育デザイン班 オンライン上で、海外の日本人学校生徒に授業
- コミュニティ班 環境プロジェクト外とのフィールドワーク



団体プロフィール

2003年に発足した有志団体です。現在約80名の高校生が部活や委員会と両立しながら参加しています。教育デザイン班・高校生環境連盟・企業連携班・コミュニティ班・たべもの班の5班に分かれ、メンバーそれぞれが「やりたい」と思った活動に力を注いでいます。



- 2009年 ストップ温暖化「一村一品」大作戦 神奈川県大会優秀賞
- 2010年 「全国高校生エコ・アクション・プロジェクト」関東地区・東北地区優秀賞
- 2017年 第2回全国ユース環境活動発表大会 環境再生保全機構理事長賞 第6回エコワングランプリ 文部科学大臣賞
- 2018年 慶應義塾塾長賞 Mono-Coto Innovation入賞
- 2020年 Mono-Coto Innovation入賞
- 2021年 関東ユース地方大会 出場 ボランティアスピリットアワード コミュニティ賞